

平成29年度  
「医学生、研修医等をサポートするための会」  
－医師の『働き方改革』～10年後に輝くために～－

日 時 平成29年11月11日（土）  
午後2時～午後5時

会 場 東邦大学 医学部 1号館「T\*square」

共 催 日本医師会・東京都医師会

## 平成 29 年度 「医学生、研修医等をサポートするための会」

### 開 催 要 項

1. 目 的 男性・女性に関わらず、医師が生涯にわたって能力を十分に発揮するため、適正なキャリアを形成することは大きな課題である。そのためには、ワーク・ライフ・バランスについて理解を深め、結婚、出産、育児、介護などのライフイベントを視野に入れた、多様なキャリアデザインを検討していくことが重要である。東京都医師会では、男女共同参画の視点から様々なモデル像を示し、情報提供・意見交換の場を設け、もって若手医師が今後のキャリアや働き方を具体的に考える一助となることを目的として本会を実施する。
2. 共 催 日本医師会・東京都医師会  
(協力 東邦大学医学部、東邦大学医師会、  
東邦大学ダイバーシティ推進センター、東邦大学教育・研究支援センター)
3. 開 催 日 平成 29 年 11 月 11 日 (土) 午後 2 時
4. 会 場 東邦大学 医学部 1 号館「T\*square」  
〒143-8540 東京都大田区大森西 5-21-16  
電 話 03-3762-4151
5. 問 合 せ 先 東京都医師会 総務課  
電 話 03-3294-8821 FAX 03-3292-7097
6. 内 容 別添プログラムのとおり
7. 対 象 者 医学生、研修医等 (託児室完備 ※要事前申込)
8. 定 員 100 名
9. 受 講 料 無 料
10. 申 込 方 法 「医学生、研修医等をサポートするための会申込書」により、  
東京都医師会総務課宛 FAX (03-3292-7097) 又はメールアドレス  
([kikaku@tokyo.med.or.jp](mailto:kikaku@tokyo.med.or.jp)) により申し込む。

平成29年度 東京都医師会「医学生、研修医等をサポートするための会」

— 医師の『働き方改革』～10年後に輝くために～ —

日時 平成29年11月11日(土) 午後2時～午後5時

会場 東邦大学 医学部1号館「T\*square」

司会 次世代医師育成委員会委員長 猪狩和子

■ 開 会

■ 挨拶

東京都医師会長 尾崎 治 夫

東邦大学学長 山崎 純 一

東邦大学医学部長 高松 研

第1部

■ 基調講演

座長 次世代医師育成委員会副委員長 大澤 秀一

「先輩たちから学ぶこと ～医学部教職員アンケート中間結果からみた働き方の検討～」

全国医学部長病院長会議 男女共同参画推進委員会

東邦大学教育・研究支援センター長 中野 弘一

東邦大学医師会長 並木 温

■ お知らせ

「日本医師会女性医師支援センターの取り組みについて」

日本医師会女性医師バンクアドバイザー医師 猪狩和子

■ 休 憩

第2部

■ シンポジウム

座長 次世代医師育成委員会委員 片桐 由起子

「各科の魅力と現状 ～大学病院・地域病院・医院開業のやりがい～」

(1) 「グローバルに進め！外科医の卵たちへのメッセージ」

東京慈恵会医科大学外科学講座 准教授

川瀬 和美

(2) 「仕事と家庭を両立する工夫 —勤務医の立場として—」

東京都保健医療公社荏原病院 産婦人科 医長

吉野 佳子

(3) 「小児科開業医の楽しさと使命」

井上小児科医院 副院長

井上 清文

■ 質疑応答

■ 閉 会

■ 意見交換会(懇親会)

進 行 次世代医師育成委員会委員 片桐 由起子

## 「先輩たちから学ぶこと～ロールモデルの重要性～」

東邦大学医師会

東邦大学医学部卒後臨床研修/生涯教育センター

並 木 温

現在多くの医学部や臨床研修病院において、各診療科における指導医とは別に、長い期間における医学生や研修医の成長を見守るための「メンター」を割り当てている。しかし医学生や研修医が自ら選ぶ「ロールモデル」こそが彼らの成長にとってより重要であり、目に見える知識・技術・態度を水面下から支える価値観の育成、つまり生涯を通じての医療に対する姿勢に影響し続けることとなる。

医師という職種は、良きにつけ悪しきにつけ「ロールモデル」の役割から逃れることはできない。このことが先輩から後輩へのバトンタッチに繋がり、組織文化の形成に大きく影響することとなる。いわゆる伝統の継承であり、見えない（潜在的）カリキュラムである。

「ロールモデル」として重要なこととして1) 学際的に（医学・医療のみならず自らを高めようとして）学び続ける姿勢、2) フィードバックを受け入れて自己を振り返る（省察する）姿勢、の2つがある。良き「ロールモデル」である先輩からのバトンを受け継いで、良き「ロールモデル」として次の世代に引き継いで行ってくれることを心から願う。

## 「先輩たちから学ぶこと～医学部教職員アンケート中間結果からみた働き方の検討～」

東邦大学医学部

全国医学部長病院長会議男女共同参画推進委員会

中 野 弘 一

中野は40年余り大学及び大学病院で勤務してきた。自分のスタートは底辺からはじまった。医学部入学式は停留所を誤認し入学式に間に合わず、1、2年次は無気力状態となり学習が手につかず苦しんだ。大学病院での研修もままならず、問診が稚拙なため出来の悪い診療録しかできず、上級医に叱責を受け続け全く医師として継続する自信を持てずにいたが、自信のなさから病棟に張り付いての病棟医としてのやり方が親切なよい先生と評価されていることを知り、上級の医師に称賛されずとも患者さんに評価されるのならやってみるのかもしれないと考え、当初最も苦手であったインタビューが専門分野となり今日に至っている。下手こそものの上手なれと思っている。

大学及び大学病院で次世代のよりよい医師を育成していくためには、現在の大学病院に勤務する医師たちの現状を知ることが必要と考え昨年大掛かりなアンケート調査を行った。アンケート結果の分析から、大学病院医師の次世代にどのように働き方を改革していくことによって輝く10年後を迎えることができるかを探ることを目指した。

調査は全国医学部長病院長会議男女共同参画推進委員会が行った。2016年6月に全国80校の医科大学の附属病院で働く教育臨床研究の先端部分を担う臨床医を対象に医師たちの仕事に対する満足度及び重要度及び生活の質に関する調査を行った。回収率は57%で解析対象は4573件であった。まず重要度についての回答では最新の医学知識や情報が入手しやすいが92%、専門領域の医師というアイデンティティーを持つことが83%、次世代教育の機会を持つことが78%であった。次に満足度については仕事のやりがい60%、職場で自由に議論できること58%、職場における人間関係52%であった。博士号を取得することは51%で、あまり重要でないのは10%であり、大きく上回った。一方大学病院での勤務時間の長さについては不満を感じている者が37%と満足している者を上回り、研究論文の進捗や

研究活動についても33%が不満を感じていて満足している者を上回った。報酬については不満を感じている者は59%に上り、満足している者を大きく上回った。育児や仕事に対する周囲の理解については職場の理解については満足は35%であったが、どちらでもないのを合わせると66%であった。また家族の理解に満足しているものは54%、育児の分担に満足と答えたものは46%であった。結果として、大学病院勤務医は、研究、臨床、教育に対する肯定感を持っていることが明らかになった。一方改善を希望しているものとして報酬も含めた仕事に対する評価、十分に研究が進められる環境の整備、勤務時間の長さの結果生じる生活の質の低下、社会のサポートの改善が挙げられた。

今回の東京都医師会が主催する医学生、研修医等をサポートする会での意見交換やクリッカーによる参加者の意識を知ることにより次世代がよりよく育成できるように取り組んでいきたい。



# 先輩たちから学ぶこと

---

東邦大学医師会

東邦大学医学部卒後臨床研修/生涯教育センター

並木 温

---

## 本日の基調講演の進め方

---

1. イントロダクション(並木)
2. クリッカーの使い方の練習
3. 参加者の意識調査(クリッカー使用)
4. 医学部教職員アンケート中間結果から  
みた働き方の検討(中野)
5. 対談・質疑応答(中野・並木)



# メンターとロールモデルの違いって

分かりますか？



東邦大学

---

## メンターとロールモデルの違い

---

### □メンター

- 相談相手
- ガイド役
- 学習者(医学生・研修医)が選べない

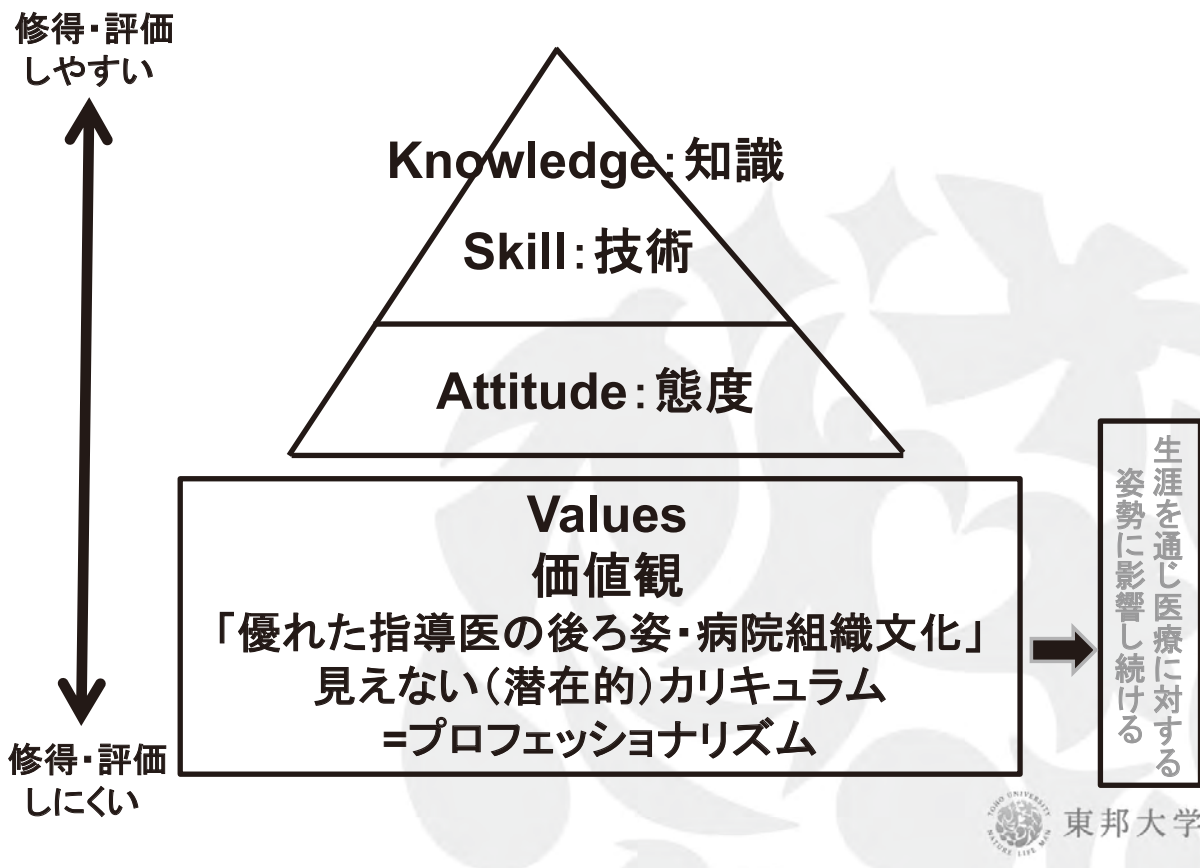
### □ロールモデル

- 目指すもの
- (アンチ)モデル
- 学習者(医学生・研修医)が自ら選ぶ



東邦大学





## ロールモデルの重要性

- 医師は良きにつけ悪きにつけロールモデル
- 医師はロールモデルの役割から逃れることはできない
- 組織全体のロールモデル化も重要
  - プロ意識のある組織文化

## ロールモデルとして重要なこと

---

- 学際的に(医学・医療のみならず自らを高めようとして含めて)学び続ける姿勢
- フィードバックを受け入れて自己を振り返る(省察する)姿勢



東邦大学

# 先輩たちから学ぶこと

—医学部教員アンケート中間結果からみた働き方の検討—

東邦大学医学部教授  
全国医学部長病院長会議男女共  
同参画推進委員会委員  
中野弘一

お手元のクリッカーをお持ちください。



## 2)チャンネル番号

**25**を押した後Enter  
ボタンを押してください



PULSE

Join :

No Classes #

Join が出たら



1)電源ボタンをON  
押してください。

# アンケートの答え方

この画面が出たら  
お答えください  
どうぞ！



選択肢の **数字** を  
押した後



## 練習問題

Q: ペットを飼うなら **ねこ派？イヌ派？**

この画面が出たらお答えください  
どうぞ！

1: **ねこ派**  
2: **イヌ派**



**数字**を押した後



**Enter**ボタンを  
押してください



## 中野の医学部一年生

- バスを降りる停留所誤認、  
入学式に遅刻
- 1・2年次勉強への  
気力がわかない
- 3年次に医学学習に  
動機付けできる

---

## 中野の医者としての一年生

- おどおどした問診
- 深夜までの病歴の書き直し
- 上級医からの叱責
- 親身なよい先生と評判
- 人に育ててもらおう存在たれ

## フィールド調査の概要

- フィールド調査票25項目とWHOQOL-26の26項目の51項目を一冊の調査票とし、各大学100部ずつ全国80校の医学部に郵送・各機関担当者回収方式で実施した。
- 実施期間：平成28年6月末～7月末
- 解析対象数：4573（57.2%）

## 大学病院勤務医の属性

			<i>n</i> = 4,573		
		<i>n</i>	%		
性別	女性	1959	42.8%		
	男性	2408	52.7%		
	無回答	206	4.5%		
年齢	20歳～29歳	558	12.2%		
	30歳～39歳	2097	45.9%		
	40歳～49歳	1359	29.7%		
	50歳～59歳	337	7.4%		
	60歳以上	58	1.3%		
	無回答	164	3.6%		
所属	国立大学付属病院	2399	52.5%		
	公立大学付属病院	357	7.8%		
	私立大学付属病院	1648	36.0%		
	無回答	169	3.7%		
職位	研修医(前期・後期)	573	12.5%		
	大学院生	540	11.8%		
	助教	1649	36.1%		
	講師/准教授/教授	1063	23.2%		
	非常勤医師/その他	544	11.9%		
	無効値	35	0.8%		
	無回答	169	3.7%		

# フィールド調査票について

- ・予備調査のデータに対してクラスター分析を実施した
- ・それらをまとめ**フィールド調査票（25項目）**を作成した

## フィールド調査票の構造（4つの領域と下位項目の内容）

### 1. 研究活動の支援

- ・最新の知識獲得
- ・研究活動の支援
- ・医療技術の向上

### 2. 内的な満足

- ・教育をする機会
- ・専門医の資格習得
- ・仕事のやりがい
- ・自己成長の機会

### 3. 労働条件や環境

- ・自由な議論
- ・職場の雰囲気
- ・職場での良好な人間関係
- ・適切な評価
- ・適切な勤務時間
- ・適切な業務量
- ・適切な報酬

### 4. 家族の支援

- ・育児の重要性
- ・家族に対する満足
- ・家族の仕事への理解
- ・職場の支援体制
- ・職場の理解

## 臨床に対する認識の重要度

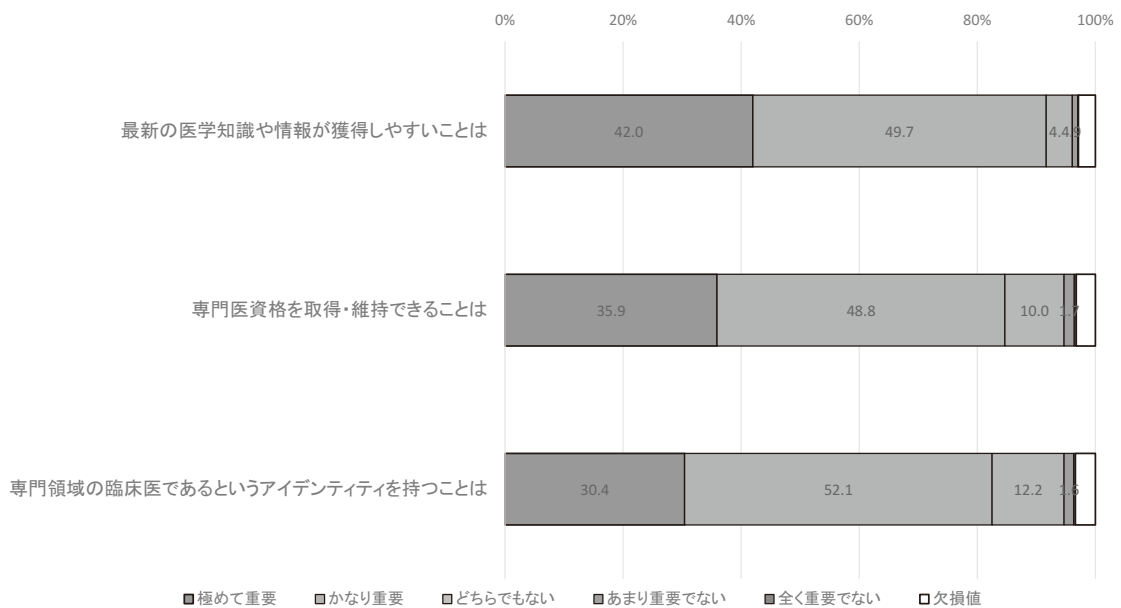
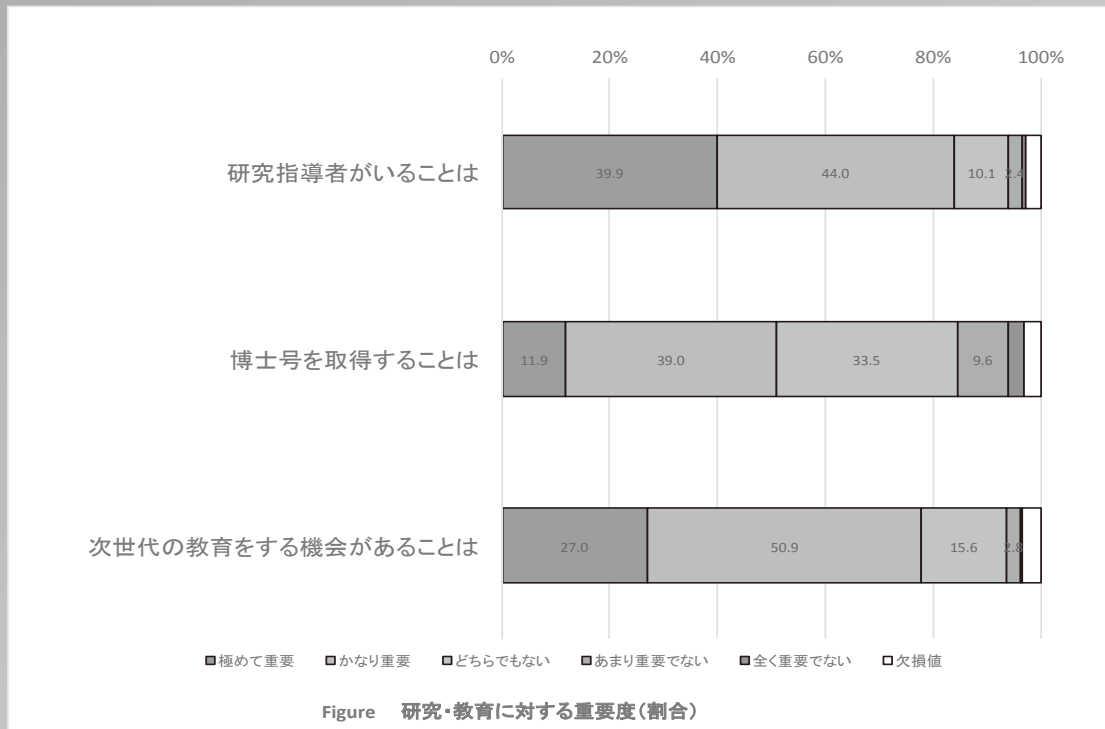
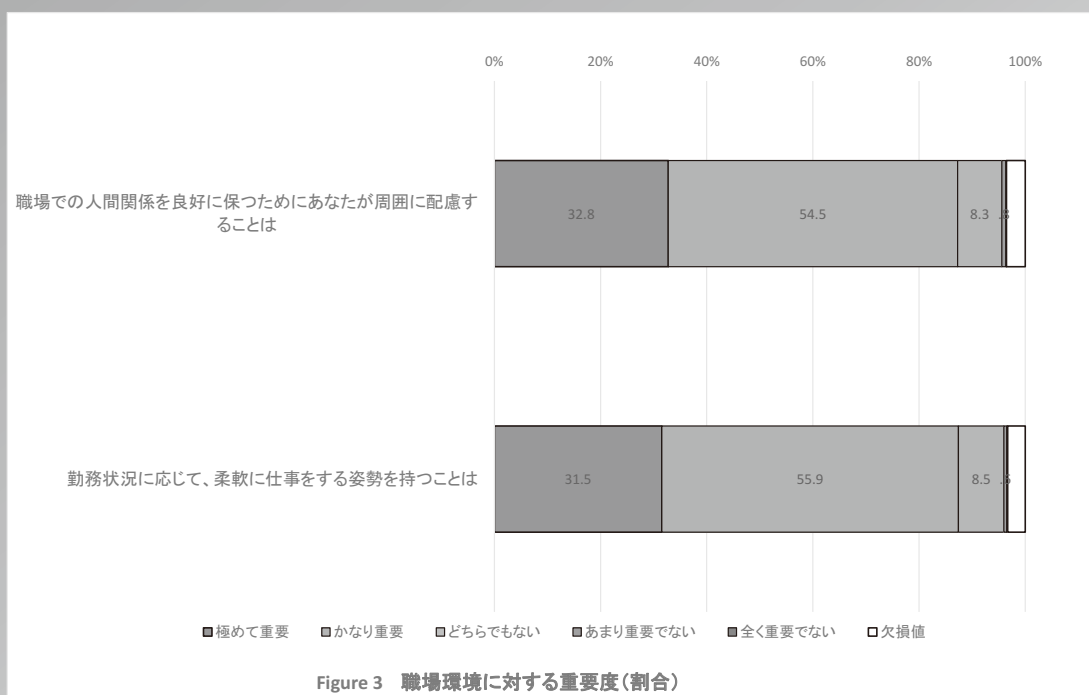


Figure 1 研究に対する重要度(割合)

# 研究・教育に対する認識の重要度



# 職場環境に対する認識の重要度





# 職場環境に対する満足度

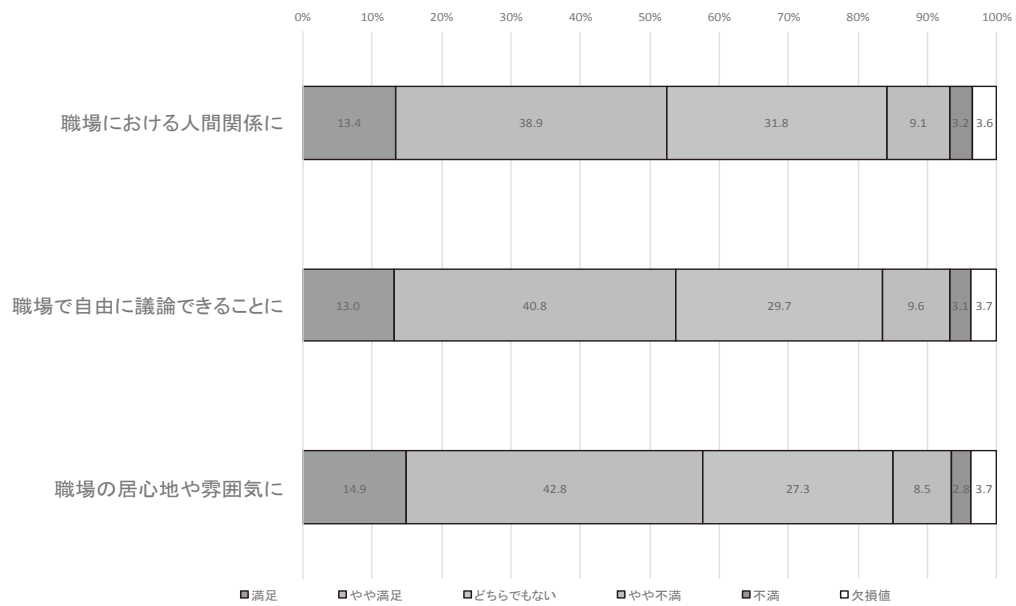
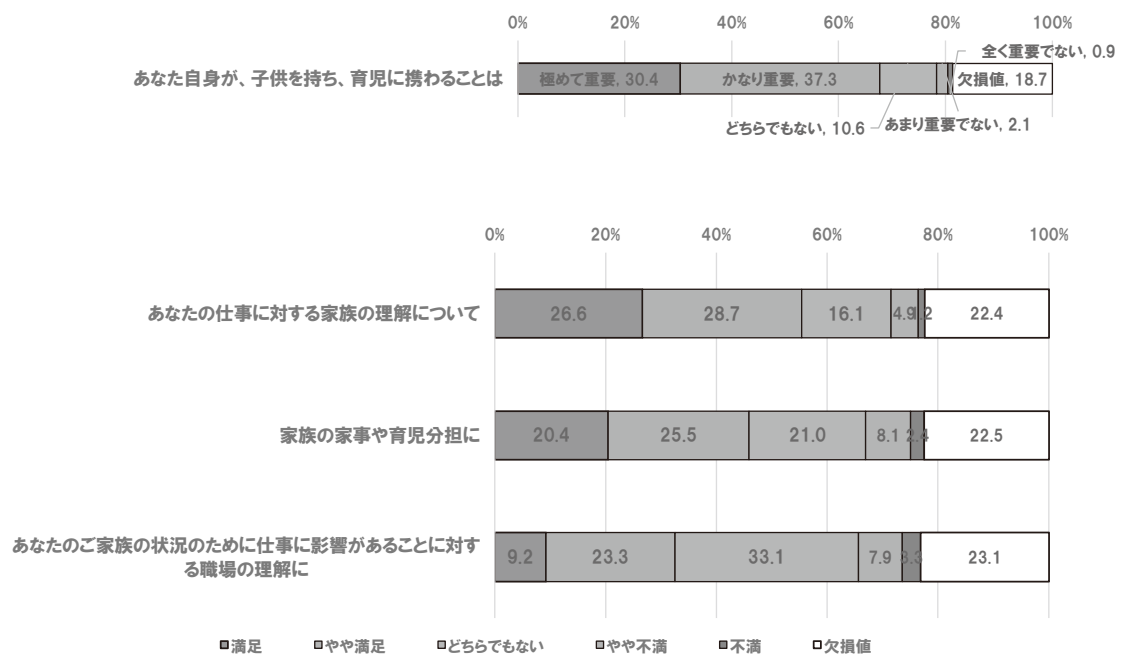
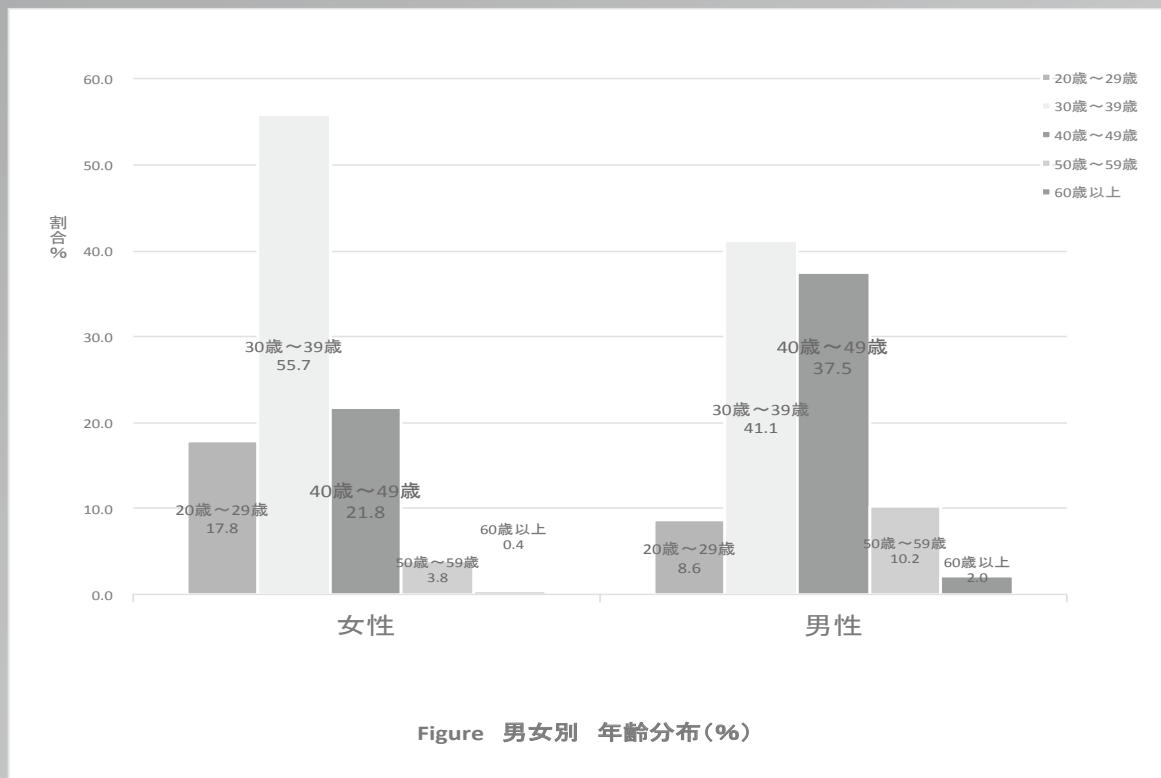


Figure 職場環境に対する満足度(割合)

# 子育てや仕事への理解に対する意識



# 大学病院勤務医師の男女別年齢分布



諸君のこれからの修行を支援します

中野弘一

## 「日本医師会女性医師支援センターの取り組みについて」

日本医師会女性医師バンクアドバイザー医師  
東京都医師会次世代医師育成委員会委員長  
猪 狩 和 子

女性医師数は年々増加しており、医師総数約31万人の約20.4%（平26年）であるが、最近の医師国家試験合格者数では女性が3分の1をしめ、医学部入学者数においては40%を超える大学があり、今後急速に増加していくと予想される。

一方、女性医師の活動率は、35歳では男性の89%に対し76%と低く、妊娠、出産、育児により離職せざるを得ない状況にある。

女性医師がライフステージに応じて働くことができる柔軟な勤務形態の促進を図り、医師不足対策の一助となることを期待して、平成18年11月、厚生労働省より「医師再就業支援事業」として日本医師会が受託し、平成19年1月女性医師バンクが開設された。その後、平成21年4月、「女性医師支援センター事業」と改められ、平成22年6月女性医師支援委員会が発足したが、昨年10月組織改編を行い専任のコーディネーターを置いて実績を上げている。

現在、日本医師会女性医師支援センター（女性医師バンク）は日本医師会館内に事務局を設置し、女性医師バンク中央センター（東日本センター・西日本センター）では専門のコーディネーターとアドバイザー医師が女性医師の就業、復帰支援、再研修の相談をはじめ様々な支援活動を行っている。

この日本医師会女性医師支援センターの具体的な取り組みについて説明する。

（女性医師支援センター事業について）

### 1. 女性医師バンクによる就業継続、復帰支援（再研修を含む）

会員、非会員を問わず利用でき、求人、求職ともに無料で、コーディネーター、現役医師が相談にのり、求職者と求人施設とのマッチングを行う。

就業実績 600 件(累計) (平成 29 年度 9 月末 61 件)

(平成 28 年度 78 件 昨年 10 月以降 117 件)

登録件数 求人延べ 3771 件 (昨年より 757 件増)

求職延べ 892 件 (昨年より 71 件増) (H29.9 月末現在)

- ・女性医師バンクの広報活動として

案内パンフレット、広報グッズの制作、DMの送付、ホームページの刷新、Facebook ページの作成、学会ブース展示、雑誌 (BAMBOO、医事新報など) 記事の掲載、都道府県医師会との連携強化

## 2. 女性医師支援に関わる各種会議の開催

- ・「医学生、研修医等をサポートするための会」

全国の医師会、学会と共催で実施し、医学生や研修医の時から男女共同参画やワークライフバランスについての理解を深め、男女ともにキャリアを中断せずに就業を継続できるように、多様な医師像のモデルを提示することを目的に開催。

平成 28 年度は 75 団体 (医師会 47、その他 28) で開催。

開催にかかる費用のうち 30 万円を上限として本会が負担

- ・「女性医師支援センター事業ブロック別会議」 および「女性医師支援事業連絡協議会」の開催

全国を 6 ブロックに分けて各都道府県医師会と共催で地域の女性医師支援の取り組みについて情報交換し、ブロック別会議の内容を全国規模で情報共有し、意見交換を行う機会として「女性医師支援事業連絡協議会」を開催

- ・「大学医学部・医学会の女性医師支援担当者連絡会」の開催

各大学医学部、医学会における男女共同参画・女性医師支援に関する取り組みについて情報交換。

- ・「地域における女性医師支援地区懇談会」の開催

各地区や学会における女性医師懇談会へ補助

## 3. 医師会主催の講習会等への託児サービス併設促進と補助

## 4. 医学生、研修生、若手医師への支援

- ・「男女共同参画やワークライフバランスの重要性について」医学部教育のカリキュラム導入を文部科学省に要望し実現

- ・臨床研修中の産休・育休中の身分保障、短時間勤務正職員制度導入につき厚生労働省に申し入れ一部実施
  - ・医学生向け無料情報誌「ドクターゼ」を発刊し全国の医学部、予備校などに配布
  - ・日本医師会臨床研修医支援ネットワークを開設
5. 女性医師の就労環境等に係る実情把握調査の実施
6. 女性医師支援フォーラム（仮称）の実施
- ・西予市おイネ賞事業表彰式・日本医師会女性医師支援シンポジウム

平成29年度 「医学生、研修医等をサポートするための会」東京都医師会

—医師の『働き方改革』～10年後に輝くために～

平成29年11月11日（土）

東邦大学医学部 1号館「T\*square」

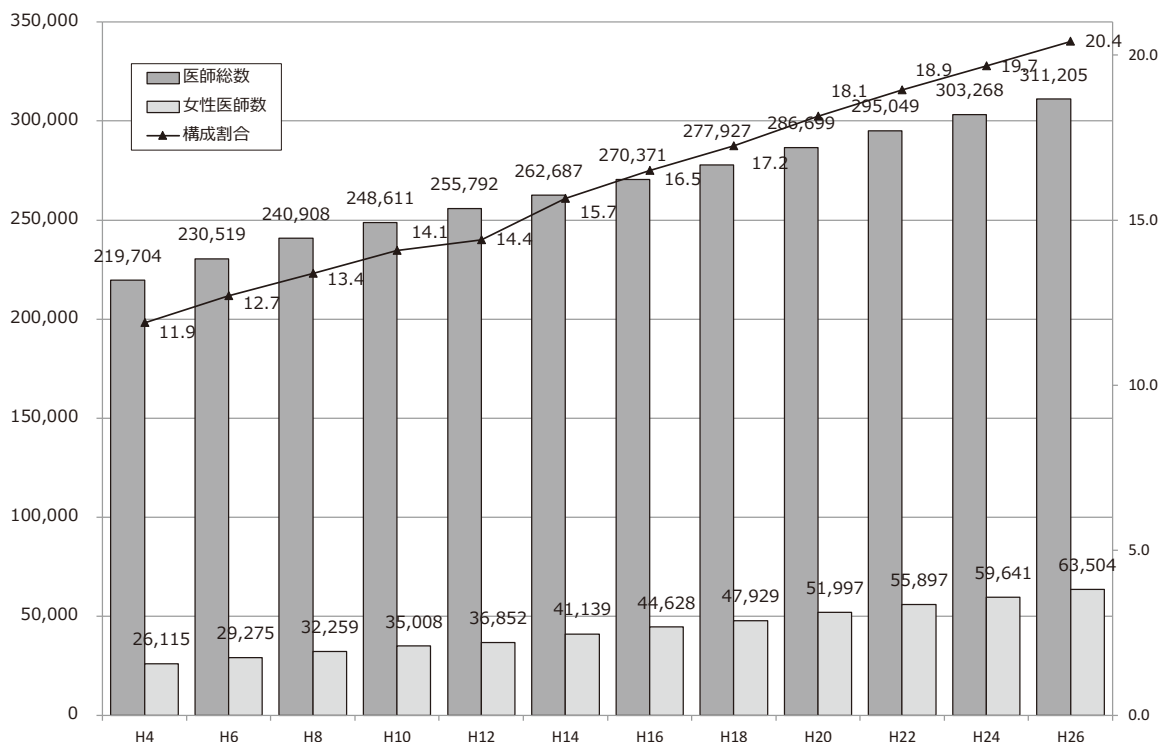


# 日本医師会女性医師支援センター の取り組みについて

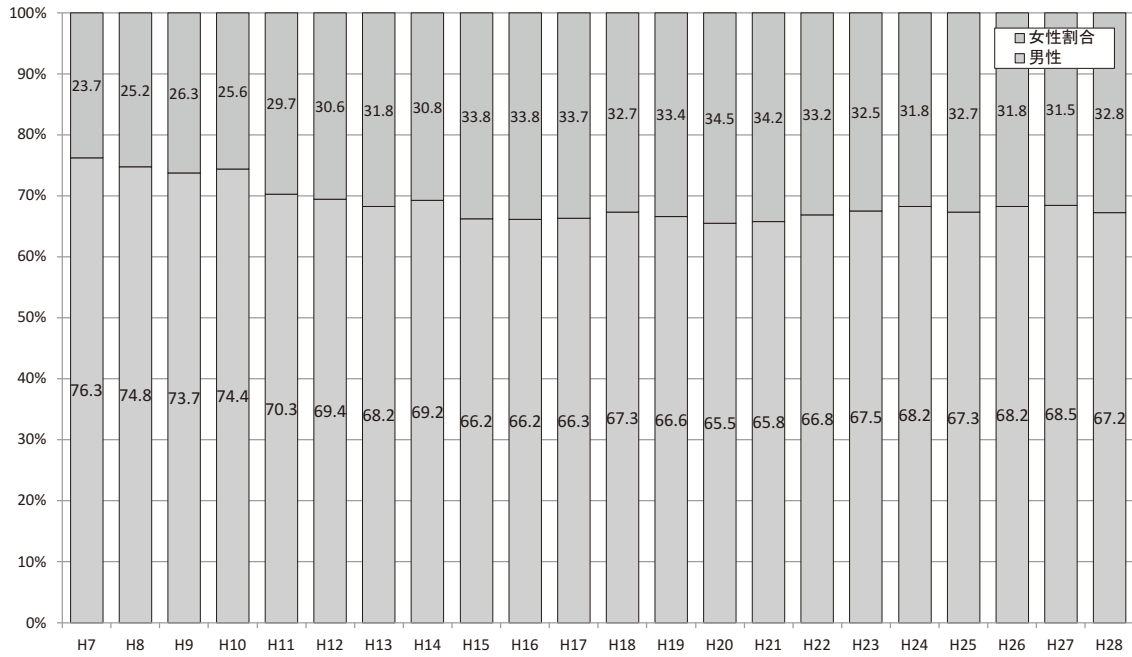
日本医師会女性医師バンクアドバイザー 医師  
東京都医師会次世代医師育成委員会委員長

猪狩和子

## 女性医師数の推移

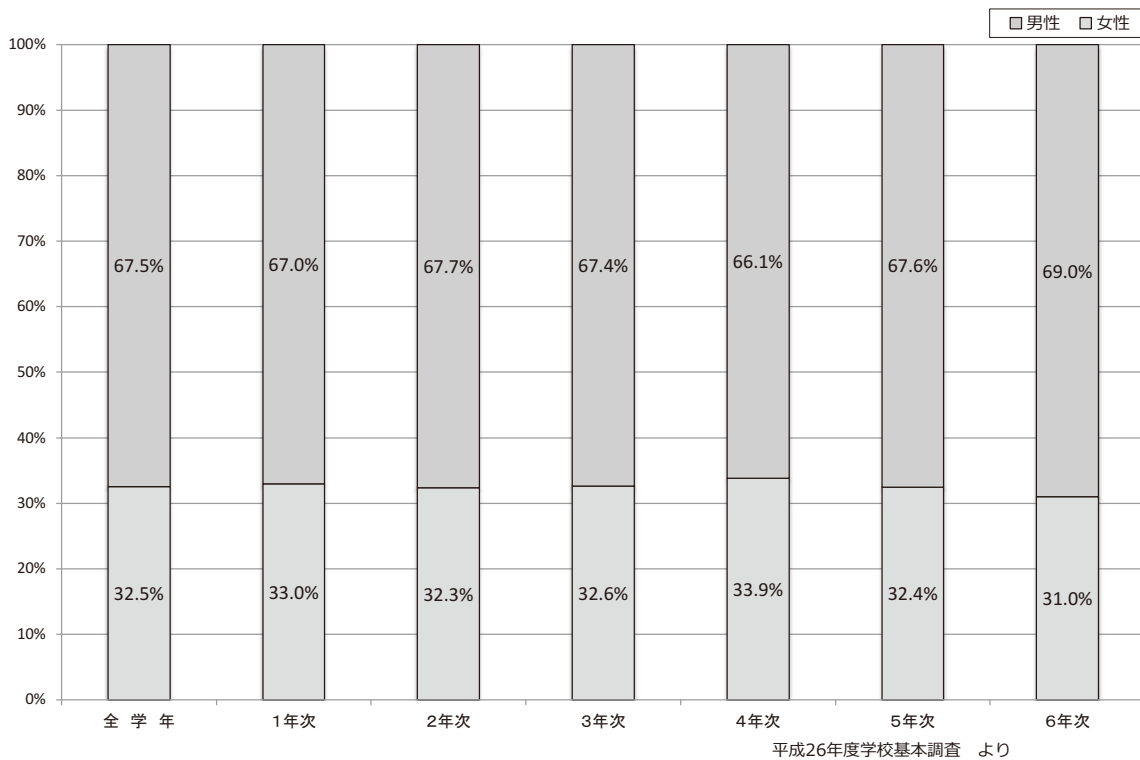


## 医師国家試験合格者の男女比



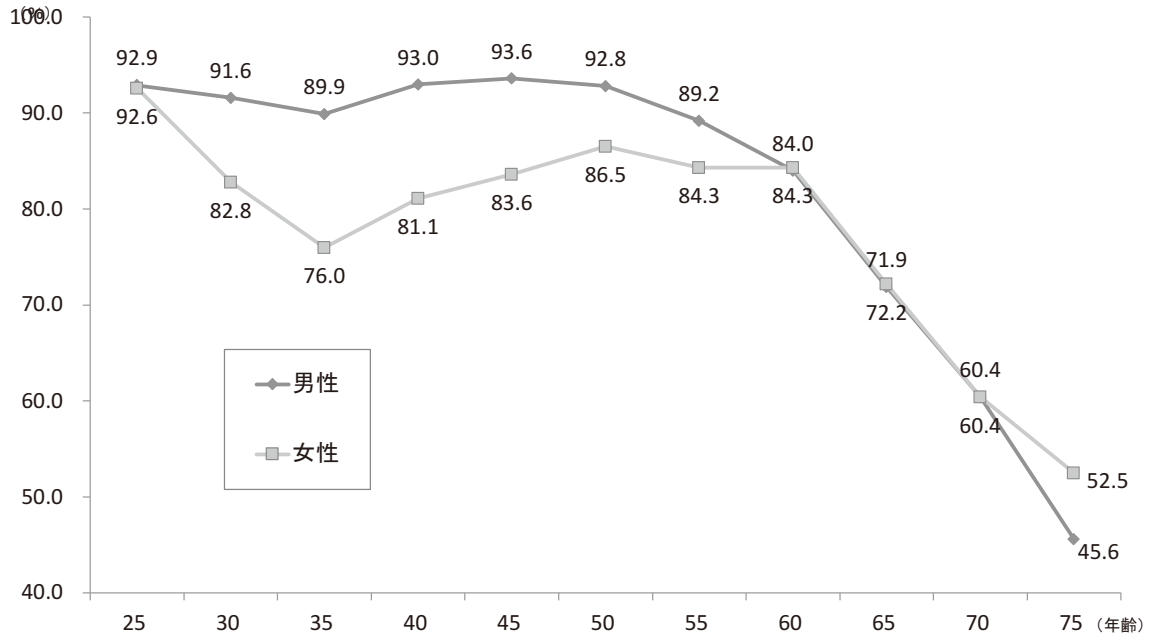
2

## 大学医学部医学科 学生数の男女比（学年別）



3

## 女性医師の活動率



※医師が25歳で卒業すると仮定した場合の就業率。

「日本の医師受給の実証的調査研究」(主任研究者 長谷川敏彦)

4

## 女性医師支援センター事業について

医師総数(約31万人)に占める女性医師の割合は約20.4%(平成26年)、国家試験合格者では女性医師は3分の1。今後女性医師数は急増していく。女性医師は出産や育児により離職せざるを得ない状況にあり、女性医師がライフステージに応じて働くことのできる柔軟な勤務形態の促進を図り、医師確保対策一助ことを目的とする。(厚生労働省委託「女性医師支援センター事業委託費実施要綱」より)

### ○平成18年11月

厚生労働省より「医師再就業支援事業」を受託

### ○平成19年1月

日本医師会女性医師バンク開設(就業継続支援、再研修含む)  
女性医師バンク以外の事業も開始

### ○平成21年4月

「医師再就業支援事業」改め「女性医師支援センター事業」へ  
(女性医師の勤務継続への支援に重点を置き、更なる事業の発展を目指す。)

5



## 女性医師支援センター事業について

### 1. 女性医師バンクによる就業継続、復帰支援（再研修含む）

### 2. 女性医師支援に関わる各種会議の開催

- 「医学生、研修医等をサポートするための会」の実施
- 「女性医師支援センター事業ブロック別会議」 および 「女性医師支援事業連絡協議会」の開催
- 「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会」の開催
- 地域における女性医師支援活動の促進

### 3. 医師会主催の講習会等への託児サービス併設促進と補助

### 4. 女性医師の就業等に係る実情把握調査の実施

### 5. 女性医師支援フォーラム(仮称)の開催

- 西予市おイネ賞事業

6

## 女性医師バンクの現況について

「日本医師会女性医師バンク」平成19年1月30日開設

- ☆ 会員・非会員を問わず利用できる
- ☆ 求人・求職共に無料
- ☆ 専任コーディネーターが、相談・マッチングにあたる

◇求職登録者数 : 累計892名 (昨年より71件増)  
(月平均新規求職登録数12件\_平成29年4月~9月)

◇求人登録施設数 : 延べ3,771施設

◇求人登録件数 : 2,277件

◇就業実績 : 600件 (H28年10月以降117件)

(平成29年9月末現在)

日本医師会女性医師バンク

検索

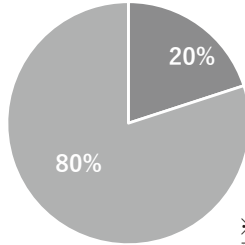
TEL: 03-3942-6512 FAX:03-3942-7397  
E-mail: info-bank@jmawdbk.med.or.jp

7

# 女性医師バンクについて

□女性医師バンク求職登録者状況

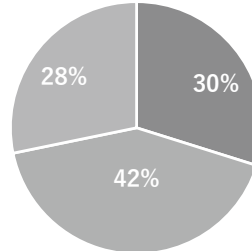
図3 1年以上の離職期間がある求職者割合



※日本医師会女性医師バンク  
平成29年2月現在

■ 1年以上の離職期間あり

図4希望勤務形態の割合



■ 1 常勤 ■ 2 非常勤 ■ 3 パート・アルバイト

求職登録者の約2割が1年以上の離職期間があり再就職を希望して登録



ワークライフバランスを重視した結果と考えられる

離職期間のある求職者の平均的な離職期間は4.5年



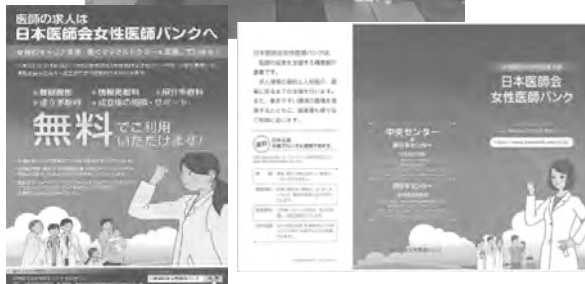
復職を支援するためには再研修が必要不可欠

このような女性医師の活躍の場を広げることで深刻化している医師不足解消につながると考えられます。

## 女性医師バンク広報活動状況

□広報活動紹介

学会でのブース展示  
求人施設へのDM配布



医療系雑誌等への女性医師支援に関する記事の掲載



医療系雑誌等へ記事掲載を行い、女性医師支援の必要性について訴求をおこなっています。

## 女性医師バンク広報活動状況

### □ 広報活動紹介

#### Facebook(SNS)を使った広報活動の強化



日本では1400万のユーザーがFacebookを利用しています。利用者は主に子育て世代。これから支援を必要とする若い世代へ向けての情報発信ツールとして今後活用していきます。



10

## 都道府県医師会との連携について

### 都道府県医師会と日本医師会女性医師バンクとの連携強化

#### 女性医師バンクHP内に都道府県医師会専用ページがオープンします！

##### 【利用を想定している都道府県医師会】

- ・ドクターバンクを設置していない
- ・ドクターバンクはあっても検索システムを保有していない
- ・ドクターバンクはあっても担当コーディネーターが不在 など



##### <メリット>

都道府県医師会専用ページより求人情報・求職者情報をご登録いただくことで、日本医師会女性医師バンクのコーディネーターが就業を斡旋。就業成立件数のアップにつながります。

求人情報をより多くの求職者が閲覧可能に。他県から引越越し予定でお探しの求職者にも情報を届けられます。

11

## 医学生、研修医等をサポートするための会

女性医師が生涯にわたりもっている能力を十分発揮するためには、職場や家庭における男性の理解と協力が不可欠。性別を問わず、医学生や研修医の時期から男女共同参画やワークライフバランスについて明確に理解しておくことが求められる。本講習会等を通じ、医学生や若い医師がキャリアを中断せずに就業を継続できるよう、多様な医師像のモデルを提示する。

### ◇ 都道府県医師会等に対し、開催を依頼

(平成18-19年度は男女共同参画委員会が都道府県医師会と共催)

平成18年度*	10
平成19年度	25
平成20年度	44(医師会32、その他12)
平成21年度	47(医師会34、その他13)
平成22年度	56(医師会43、その他13)
平成23年度	57(医師会44、その他13)
平成24年度	60(医師会44、その他16)
平成25年度	65(医師会51、その他14)
平成26年度	70(医師会55、その他15)
平成27年度	76(医師会53、その他23)
平成28年度	75(医師会47、その他28)

\*平成18年度はモデル事業として10道県のみ開催

### ◇ 開催に掛かる費用のうち、30万円を上限として、本会が負担

12

## 制度等の整備

### 国家公務員の育児支援策として、医師の正職員短時間勤務制度の早期導入

「育児休業等に関する法律の一部改正」として平成19年8月1日施行。

### 臨床研修制度における産休期間中の身分保証、再開時の研修継続の保証

90日を越える研修の休止について厚生労働省の省令に明記(平成21年6月)。

※「臨床研修を長期にわたって休止する場合の取扱いについて」(平成21年6月30日付医政局医事課医師臨床研修推進室長事務連絡)現在、H21年6月30日通知は廃止され、医政医発0224第1号平成27年2月24日に更新されている。

### 男女共同参画やワークライフバランスについての講義を医学部教育カリキュラムへ導入

文部科学省:医学教育モデル・コア・カリキュラム-教育内容ガイドライン(平成22年度改訂版)に採用。

13

医学生向け  
無料情報誌『ドクターゼ』  
2012.4 創刊

- 発行部数：約6万部
- 発行：年4回
- 全国の大学医学部・予備校に配布

【名称】

Doctor-ase（ドクターゼ）  
「医師にする酵素」の意味。  
様々な情報を通じて、医学生が  
医師になるのを助けるという含意



14

## 女性医師支援に関わる各種会議の開催

### ＊「女性医師支援センター事業ブロック別会議」および 「女性医師支援事業連絡協議会」の開催

地域からの声をお聞かせいただくと同時に、本事業へのご理解を深めていただき、双方向による情報伝達ならびに各地域内での情報交換の機会として、平成21年度より全国6ブロックにて開催。また、各地で実施されたブロック会議の内容を、全国規模で情報共有し、意見交換を行う機会として開催「女性医師支援事業連絡協議会」を開催しています。

#### <女性医師支援センター事業ブロック別会議>

- ◇北海道・東北ブロック(担当:岩手県医師会)  
日時:平成29年12月3日(日)10時~12時15分 場所:盛岡市内ホテル
- ◇関東甲信越・東京ブロック(担当:日本医師会)  
日時:平成30年1月6日(土)15時~17時 場所:日本医師会館
- ◇中部ブロック(担当:石川県医師会)  
日時:平成29年11月12日(日)12時~14時 場所:金沢市内ホテル
- ◇近畿ブロック(担当:大阪府医師会)  
日時:平成29年10月14日(土)15時~17時 場所:大阪市内ホテル
- ◇中国四国ブロック(担当:徳島県医師会)  
日時:平成29年11月4日(土)15時~17時15分 場所:岡山コンベンションセンター
- ◇九州ブロック(担当:大分県医師会)  
日時:平成29年12月16日(土)14時~16時 場所:大分市内ホテル

#### <女性医師支援事業連絡協議会>

日時:平成30年2月14日(水)14時~16時半 場所:日本医師会館

15

## 医師会主催の講習会等への託児サービス併設促進と補助

勤務継続及び復職の支援の一環として、育児中の医師の学習機会を確保するため、各医師会が主催する講習会、講演会、研究会等に託児サービスを併設する費用を補助する。(上限30万円)

対象：都道府県医師会または郡市区医師会が主催する講習会、講演会、研究会 等

### 【利用実績】

	利用医師会数	利用者数(子どもの数)
平成21年度	14医師会	102人
平成22年度	20医師会	231人
平成23年度	20医師会	174人
平成24年度	23医師会	284人
平成25年度	20医師会	343人
平成26年度	23医師会	266人
平成27年度	23医師会	307人
平成28年度	24医師会	369人

上記には、日本医師会利用分も含む

16

## 大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会の開催について

【目的】 ・ 本会女性医師支援センターの取り組みの周知  
・ 各大学医学部および各医学会における女性医師支援や男女共同参画に関する取り組みについての情報(意見)交換

【開催日時】 平成29年9月29日(金) 連絡会 14時～16時(於：日本医師会大講堂)  
茶話会 16時～ (於：日本医師会小講堂)

【参加者】 ・ 各都道府県医師会から推薦いただいた、管内の大学医学部の女性医師支援や男女共同参画の担当者  
・ 各日本医学会分科会(126学会のうち64学会出席)の女性医師支援や男女共同参画の担当者  
・ 都道府県医師会担当役員等

【内容】 1. 日本医師会の女性医師支援に関する取り組みについて  
2. 女性医師の勤務環境の現況に関する調査報告について

### 3. 事例発表

#### ①大学

- (1)岡山大学 片岡仁美先生
- (2)自治医科大学 石川由起子先生

#### ②学会

- (1)日本内科学会 名越澄子先生
- (2)日本外科学会 中村清吾先生

### 3. 意見交換

**出席者：264名**

17

## 「2016年度 女性医師の勤務環境の現況に関する調査」概要

2008年度に実施した同様のアンケート調査項目をベースに再度「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」を実施。

- 目的: 女性医師支援をさらに具体的かつ実効あるものにするため、全国の病院勤務女性医師の現況を詳細かつ正確に把握する。
- 調査期間: 2017年2月～3月末
- 調査方法: 全病院(8,475施設)に対して、病院に勤務する女性医師に調査票の配布を依頼。女性医師に無記名で回答していただき、調査会社へ直接返送。
- 調査主体: 日本医師会 男女共同参画委員会／日本医師会 女性医師支援センター
- 配布数: 30,323
- 回収数: 10,612 (病院勤務の全女性医師に占める回収割合 24.7%)
- 有効回答数: **10,373** (配布数を分母とした場合の有効回答率 34.2%)

### 9月20日 日本医師会定例記者会見で発表

【概要】 [http://www.med.or.jp/joseiishi/h28wd\\_survey\\_summary.pdf](http://www.med.or.jp/joseiishi/h28wd_survey_summary.pdf)  
【報告書】 [http://www.med.or.jp/joseiishi/h28wd\\_survey.pdf](http://www.med.or.jp/joseiishi/h28wd_survey.pdf)



18

## 女性医師支援シンポジウムの開催

第6回西予市おイネ賞事業表彰式・日本医師会女性医師支援シンポジウム  
～もっと素敵なお伊予市へ～

【主催: 西予市、日本医師会、愛媛県医師会】

【開催日時: 平成29年11月26日(日)13時～16時】、【場所: 西予市宇和文化会館】

<第1部>

第6回西予市おイネ賞事業表彰式(13時～13時50分)

<第2部>

日本医師会女性医師支援シンポジウム(14時～16時)

I 基調講演 座長: 今村定臣(日本医師会常任理事)

1. 健康寿命と輝き思考 ～素敵に年を重ねよう～

海原 純子(日本医科大学特任教授、心療内科医)

2. 女性医療職の輝く明日へ～地域の健康をめざして～

自見 はなこ(参議院議員、東海大学医学部医学科客員准教授)

II パネルディスカッション

座長: 久野 梧郎(愛媛県医師会長)

1. 安心して暮らせる地域づくり 管家 一夫(西予市長)

2. パネルディスカッション

登壇者: 管家一夫(西予市長)、海原純子、自見はなこ、

井関満永(西予市医師会長)、今井淳子(愛媛県医師会常任理事)

III 総括 今村 定臣



楠本イネ

\*西予市ホームページより

19

ご清聴、ありがとうございました



20



## 「グローバルに進め！外科医の卵たちへのメッセージ」

東京慈恵会医科大学 外科学講座

川 瀬 和 美

皆さんはどのようなことに興味をお持ちでしょうか？

医学部を選んだ時点で、やりたいことが見つからないという人は少ないけれど、どの分野に進もうか悩んでいる人は多いと思います。自分が興味を持った分野はあるが、労力が多く果たして自分の生活との兼ね合いがうまくいくのか？と考えている人や、結婚出産との両立に悩む女子も多いのでは？やってみる前から「大変そうなのでやめよう」、というのでは勿体ないと思いませんか？

今回、医学生・研修医の皆さんに自身の経験をご紹介します、グローバルな目をもって進んでいくことをお勧めしたいと思います。

# グローバルに進め！ 外科医の卵たちへのメッセージ

東京慈恵会医科大学 外科学講座  
川瀬和美

## 第2部

クリッカーの用意はよろしいでしょうか

2-3) **あなたは学生の時期に海外へ行って  
研修や留学をした経験がありますか？**

1) **はい、研究の経験があります**

2) **いいえ、  
海外研修の経験はありません**

## 2-4) あなたは外科に興味がありますか？

1) はい、興味があります

2) いいえ、興味はありません

## 外科のやりがい

### 手術

自らの手で直接悪いところを治せる

患者さんの症状が劇的に改善する

手術は患者さんにとって一生に一度の出来事：

感謝される

手術以外にも患者さんをトータルに診ることができる

診断

術後の薬物治療

再発時の薬物治療や緩和医療まで

# 卒業時 いろいろな選択肢

やりたいことは？

全身を診られるようになりたい

手先を使う技術的なものを身につけたい

先輩からの勧誘

学外でいろいろな経験をしたい

三井記念病院を受験 レジデント1学年4名

6倍の倍率 合格

初の女性外科レジデント

## 三井記念病院での生活

5:00 起床 病棟のストレッチャーで患者さんに見られないように起きる

お風呂 看護師さん用の浴室 大風呂

6:00 回診 「おはようございます！」患者さんを起こしながら

そしてその日のオーダーを出す

7:00 カンファレンス 術前カンファと手術報告 朝ご飯食べながら

8:15 手術 または 検査

午後 新規入院患者さんの病歴聴取と受け持ち患者さんの検査結果・病状推移確認

その後 カルテ書き、検査結果貼り、自分の担当の検査報告書書き、翌日の新規入院患者さんの病状把握と検査オーダー

急患や急変発生

夜中 みんなで飲みに行く 夜中2時まででお店終了

その後 手術検体標本作製 翌朝のカンファ準備

# 何が面白いのか

**毎日が事件の連続** – 数多くの手術と手技を身につけられた

**毎日が試練** – 耐える力を身につけられた

**毎日がお祭り** – 仲間と喜びやワクワクを分かち合う

**患者さんとのドラマの連続** – 病態だけでなく、人生観なども教わる

看護婦さんや技師さん、他のコメディカルとも友達づきあい  
年1回の2週間の夏休みと医局旅行・医局スキー

---

## 第2部

### 2-6) あなたは結婚や出産の時期を 考えていますか？

- 1) はい、**具体的**に真剣に考えています
- 2) はい、**漠然**と考えています
- 3) **時々**考えることもあるくらいです
- 4) **全く**考えたこともありません

## 私の場合

結婚？

出産は女性にしかできないことだから、  
経験してみたいな。

---

## 人生観を変えた経験

- 留学の話が上司からもたらされる
- 留学したい（見たことのない世界を経験する）  
－ 二つ返事をお願いします
- University of Texas M. D. Anderson Cancer Center  
リサーチフェロー（無給）
- そのかわり？ 専門は乳腺内分泌となる

## 留学中の経験

恩師 Dr. Kelly Hunt

– アメリカ女性医師の生活を拝見

周囲はアメリカの青年たち（医学部入学前の学生や大学院生） – アメリカ人の若者の生活を経験

Surgical Oncologyスタッフやクリニカルフェローとの交流

E C F M Gライセンス取得

---

## 結婚の話

スタッフの外科医としてフェロをーとして  
普通に働く多くの女性医師と出会う

男性医師も普通に家族や家庭大切にする

家族ぐるみの付き合いが多い

????

結婚を決定

## 日本帰国、結婚、出産

2001年1月帰国後5月結婚

乳腺内分泌外科所属

手術・外来・検診など通常業務

2002年3月出産 産休は2月初めより

手術・当直は産休直前まで普通に行う

2002年7月より育児休暇明け

業務は通常通り

2-7)

あなたは研修を終え、専門医を取得、結婚して

子供が生まれました。

子どもが1歳になる前に自分が専門医として学び

たい分野で世界的に有名なアメリカの病院から

オファーが来ました。あなたならどうしますか？





2-7) あなたは研修を終え、専門医を取得、結婚して子供が生まれました。子どもが1歳になる前に自分が専門医として学びたい分野で世界的に有名なアメリカの病院からオファーが来ました。あなたならどうしますか？

- 1) 子どもと配偶者を残して**単身**アメリカに行く
- 2) 子どもと配偶者と一緒に**3人**でアメリカに行く
- 3) 子どもを自分または配偶者の親に預けて  
**配偶者と2人**でアメリカに行く
- 4) 配偶者を日本に残して**子どもだけ**を連れてアメリカに行く
- 5) 子どもがいるのでアメリカでの研修を**あきらめる**

---

## 2回目の留学、どうするか

長男9か月の時、Dr. HuntよりBreast Surgical Oncologyのクリニカルフェローの話がもたらされる。

家族、教授、同僚みな—こんな経験はできないのだから、やってみては！

一家で行きましょう

夫はBaylor大学の皮膚科ポスドクのポジションをゲット

## クリニカルフェローの生活

テキサス大学M. D. Anderson Cancer Center臨床フェローとなり、一般現地人同様の乳腺外科医として働く

朝6時カンファレンス6時45分患者入室

その他のカンファレンス多数だが大体は昼または夕方4時ごろから

1カ月交代で乳腺患者急患24時間オンコール  
院内保育所や病児保育などなし

一番大変だったのは夫

## 再帰国後

慈恵医大外科診療チーフとなり、外科全体の手術の統制や診療上の管理を行う

2005年外科グランドラウンドで話題を取り上げる

### 外科グランドラウンド

テーマ：外科における女性医師の現状と今後の課題

- ・ 日時：平成17年10月17日 午後6時30分より（医局会終了後）
- ・ 場所：西講堂
- ・ 担当：本院外科診療チーフ・学生担当・レジデント担当係

# 帰国後その他

2005年 日本外科学会外科医の地位向上のためのアクションプラン

女性外科医支援も重要

2006年3月 第2子出産  
診療チームや各委員会を離れる  
当直や日常業務は同じ

2006年 日本外科学会女性医師支援委員会

2007年末 日本外科学会会員全員を対象にアンケート  
を施行

2009年 日本女性外科医会創設

2011年 慈恵医大女性医師キャリア  
支援室副室長

**JAWS 日本女性外科医会**  
Japan Association of Women Surgeons

TOP 会について 入会 過去の行事 Library 寄付一覧 リンク集 English

▶ 日本女性外科医会

- 会について
  - 会則
  - 役員
- 入会申込
- 会員情報更新
- マナー・サポートチーム
- 過去の行事
  - 発足式
  - 定例会
  - 学術集会
  - 勉強会
  - その他の記録
- Library
- 寄付一覧
- リンク集
- English

**What's new**

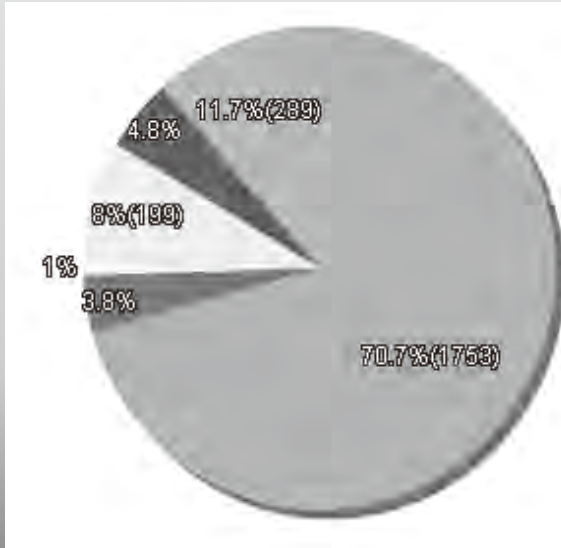
- 第8回定例会・朝食会（ポスター）を2017年4月29日（第117回日本外科学会定期学術集会期間中）開催しました。多数の皆様にご参加いただき感謝申し上げます。
- 日本女性外科医会は第12回「平塚らいてう賞」顕彰を2016年11月26日に受賞しました（選考委員コメント）（授賞式）（賞状）。

第12回  
平塚らいてう賞  
2016年11月26日  
日本女医大学 新礼山

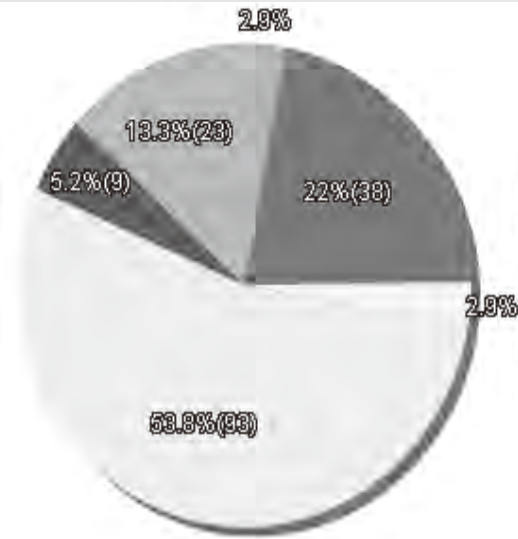
日本外科学会会員へのアンケート  
配偶者の職業

- 専業主婦(夫)
- 会社員
- 自営業
- 常勤医師
- 非常勤医師
- その他

男性



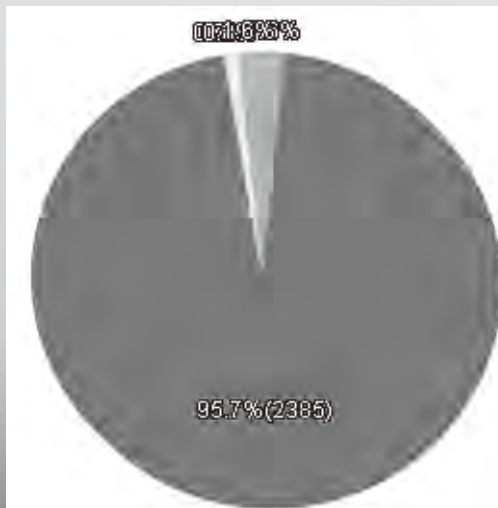
女性



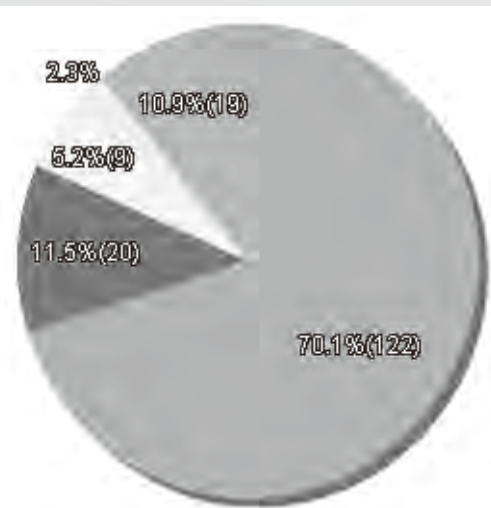
日本外科学会会員へのアンケート  
主として家事にかかわる人

- 自分
- 配偶者
- 自分の父または母
- 配偶者の父または母
- その他

男性

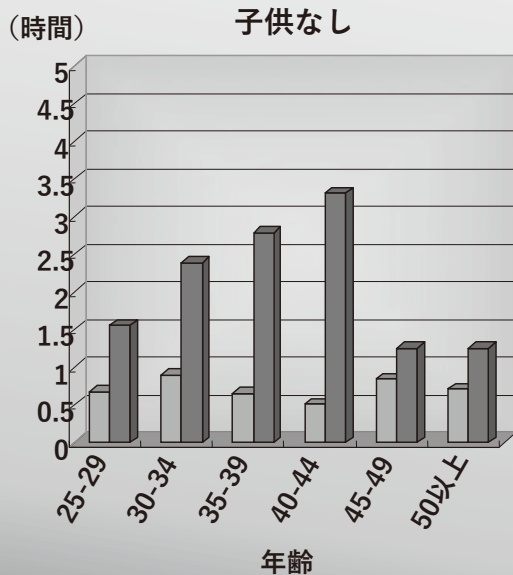


女性

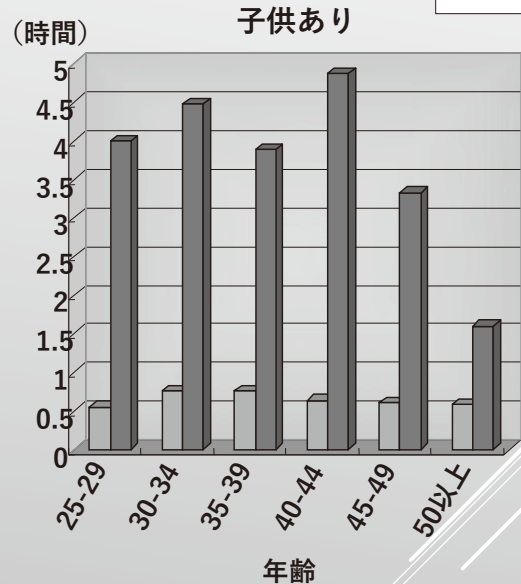


日本外科学会会員へのアンケート  
**一日平均家事時間**

■ 男性  
 ■ 女性



男性 0.8 時間  
 女性 2.4 時間



男性 0.6 時間  
 女性 4.6 時間

## さらにその後

2010年 アメリカ女性外科医会へ参加し、数多くの女性外科医と出会う

2011年 慈恵医大女性医師キャリア支援室副室長

アメリカと香港の女性外科医と協力して研究を行い、国際学会で発表

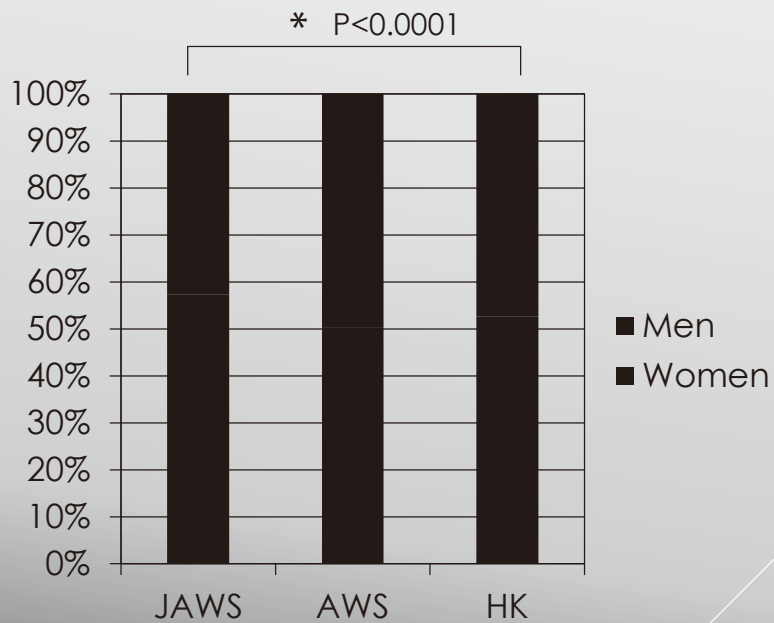
アメリカ外科学会フェロー

2012年 アメリカ外科学会 Women in Surgery Committee 委員

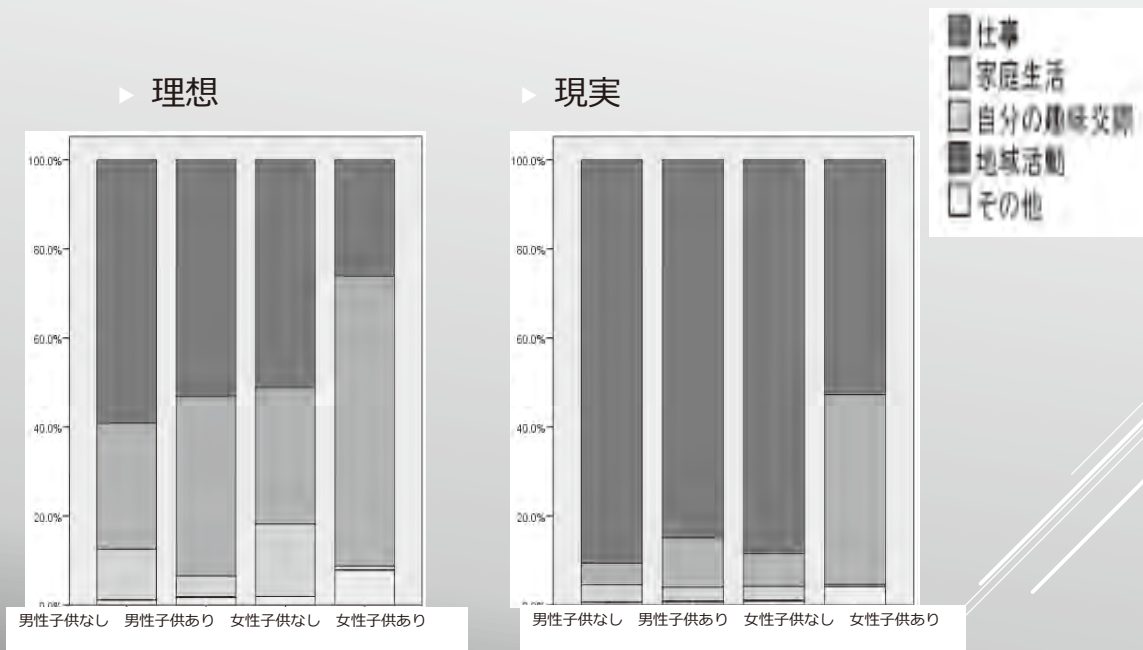
2013年 アメリカ、フィンランド、香港の女性外科医と協力して研究を行い、国際学会で発表

2014年 日本外科学会アンケート

日本女性外科医会、アメリカ女性外科医会、香港女性外科医会合同アンケート  
**理想の男女家事分担比率**



## 生活の優先項目

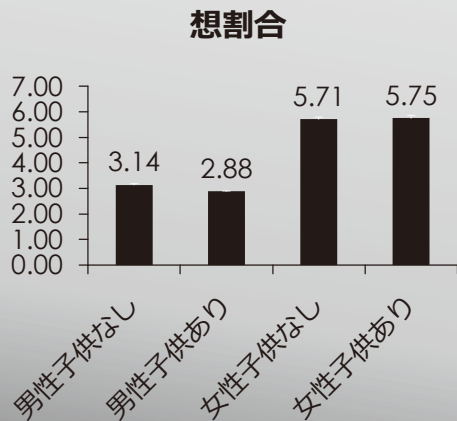


子供のいる女性で有意に家庭が優先されている。

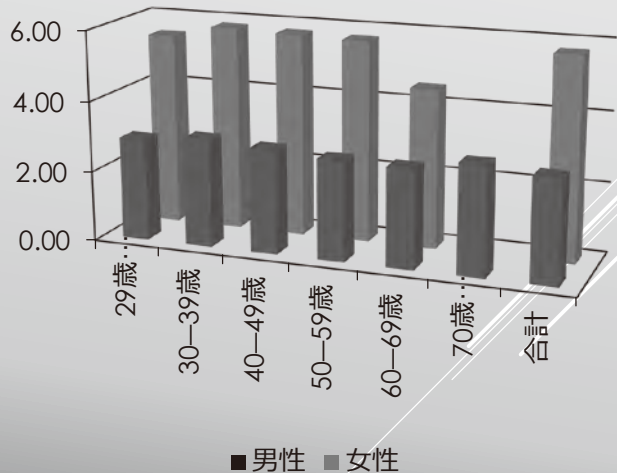
# 家事育児分担の理想割合

- 男女ともに、男性は女性に家庭を任せるのが当然と  
思っており、年代が変わってもこの考えは変わらない。

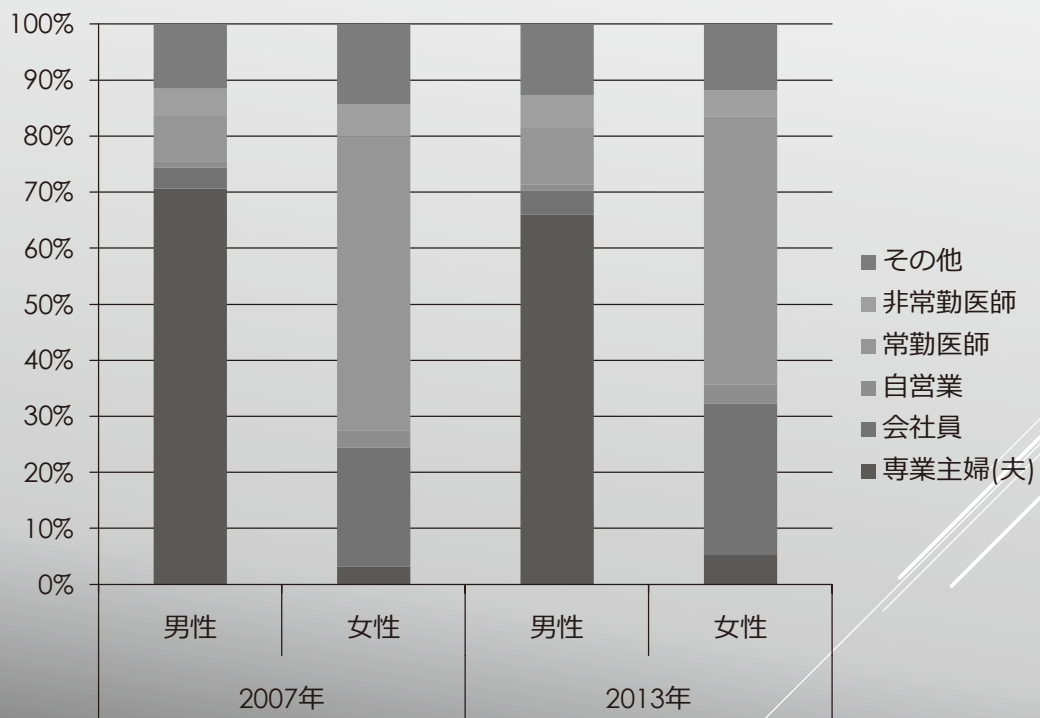
Q32 家事育児分担の理想割合



性別年齢別の家事育児分担理想割合

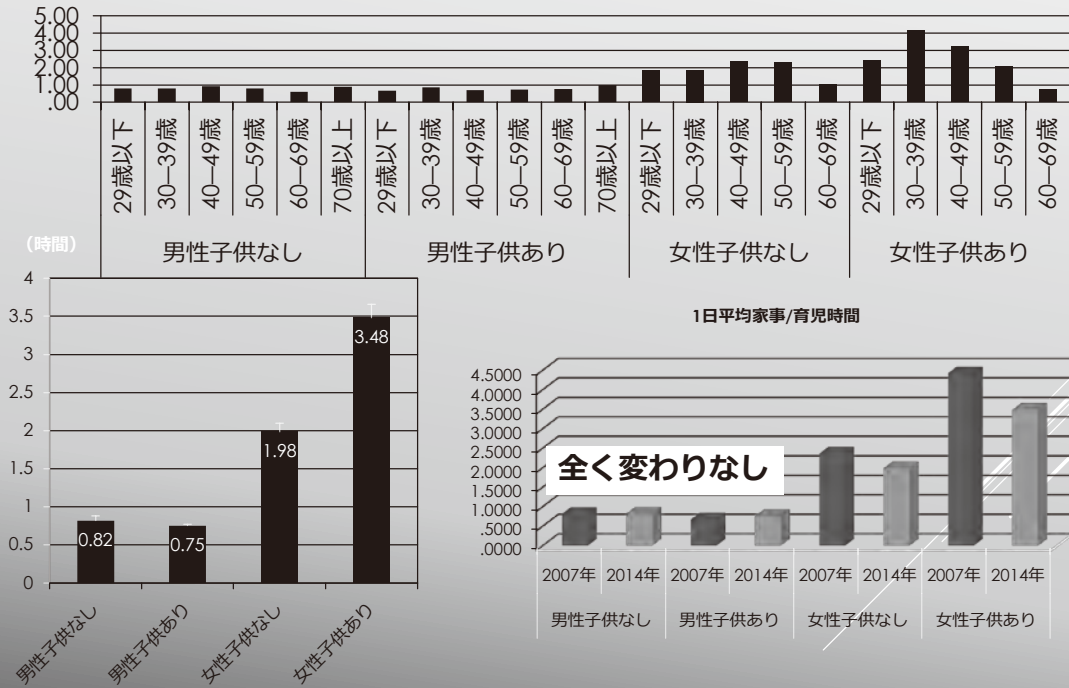


# 配偶者の職業



# 1日当たり平均家事・育児時間

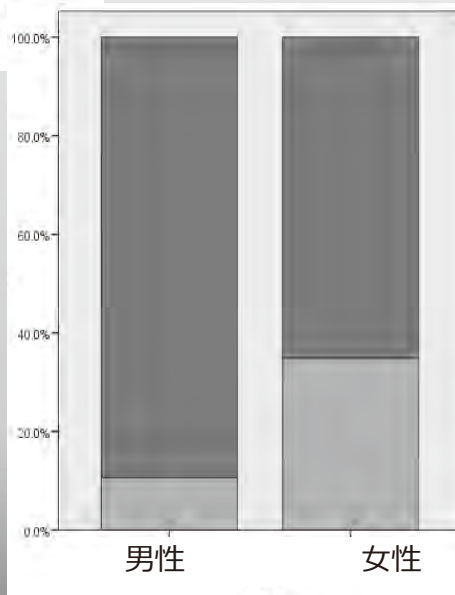
性別年齢別1日当たり平均家事/育児時間



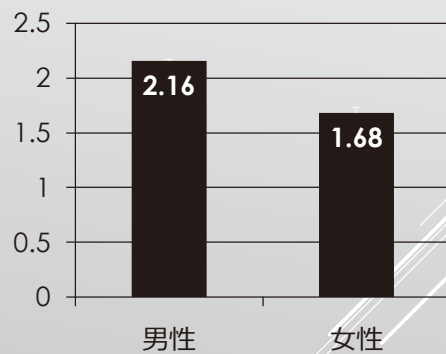
# 子供の有無と数

Q42子供の有無

■あり  
■なし

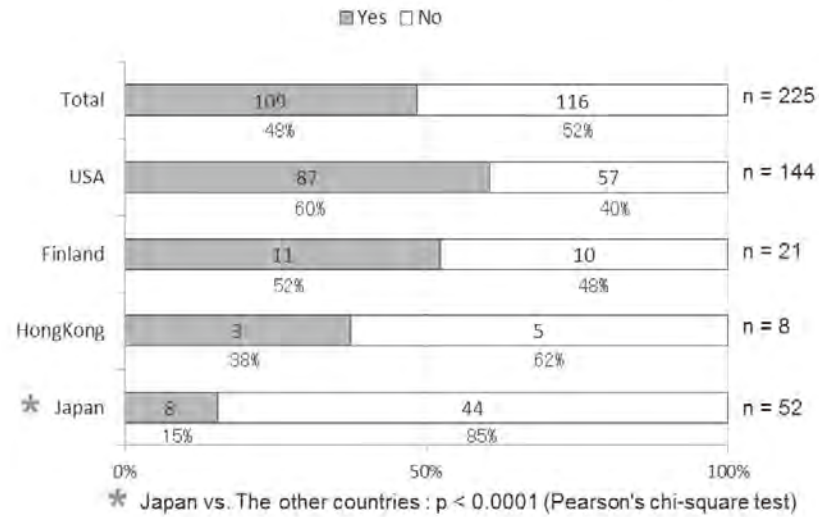


子供の数の平均

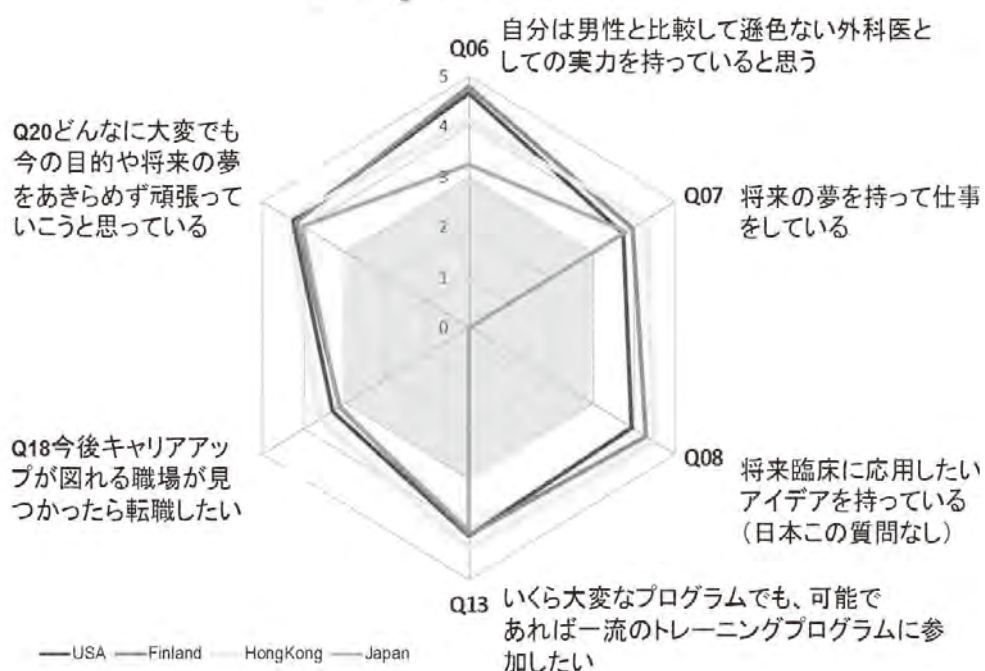




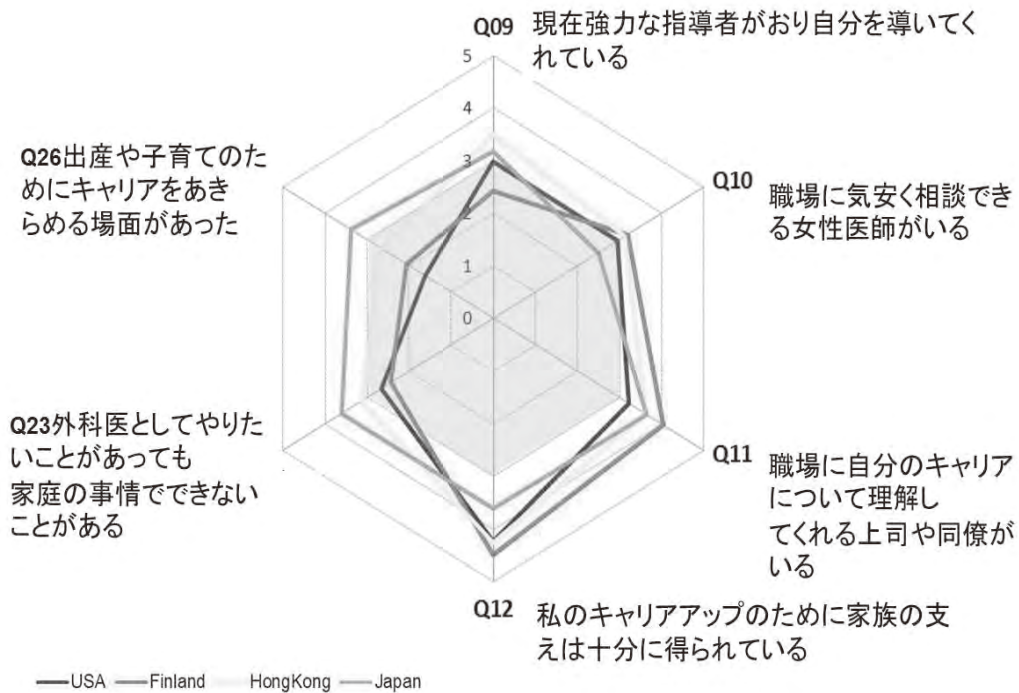
## 現在主要学会の委員会や研究班のメンバーとして活躍している



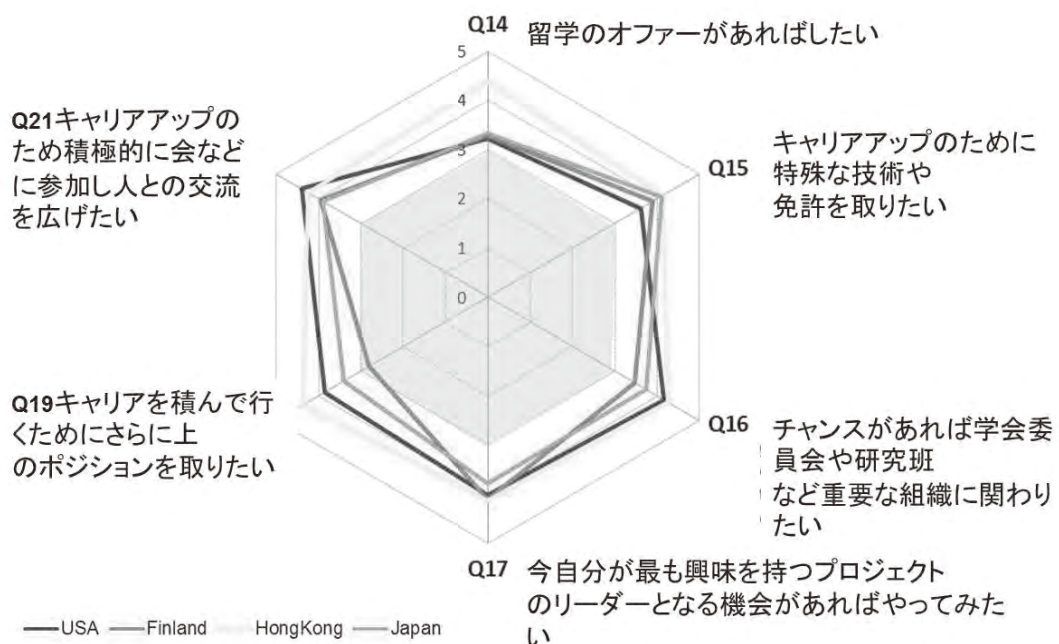
## Purposefulness



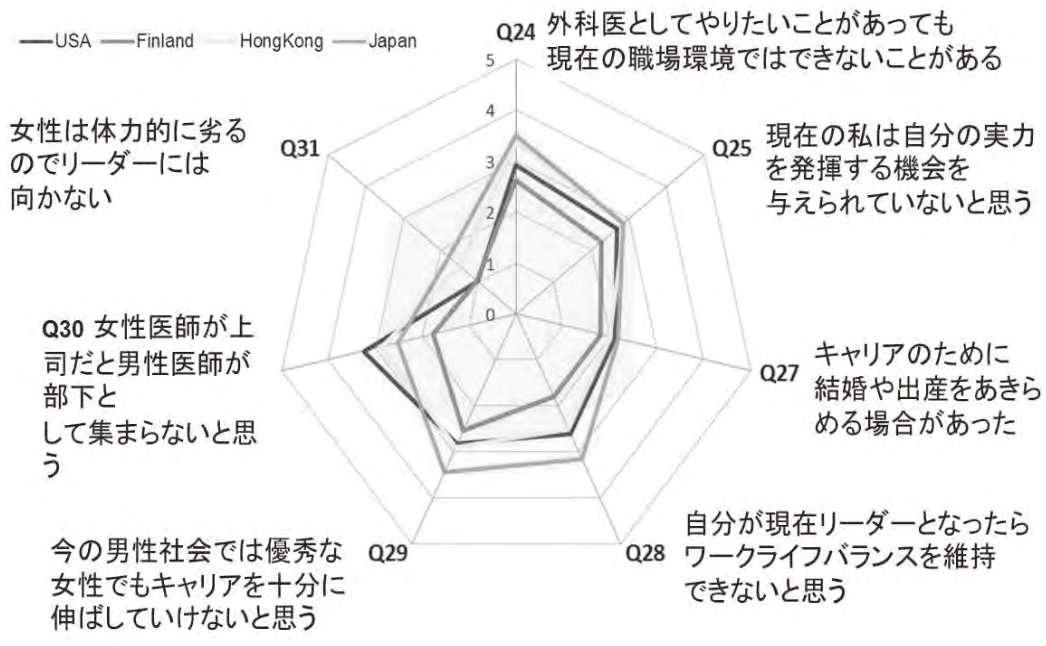
## Support



## Career Aspiration



# Obstacles



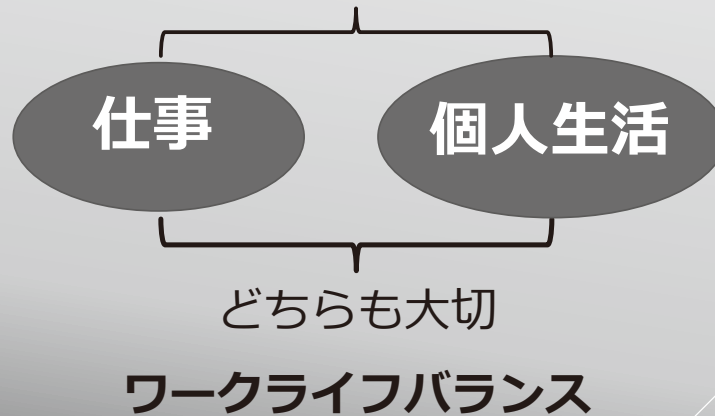
## 最低限必要なこと

- ▶ 産休時の代替要員 : 周囲の負担が増えるなら働く分に見合った報酬が必要
- ▶ 育児支援体制
  - ▶ 院内保育
  - ▶ 病児保育
  - ▶ 学童保育
  - ▶ 緊急時の育児支援体制 (保育時間以外の育児支援)
- ▶ 短時間勤務
- ▶ 当直免除?

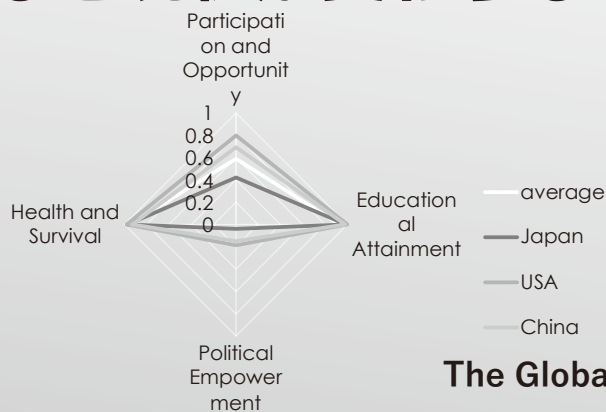
# もっと大事な考え

男性・女性で責任に違いなし

男女平等参画



# なぜ現状が変わらないのか



The Global Gender Gap Report 2010

- ▶ リーダーシップポジションに女性が必要
- ▶ 女性自身も若いうちからこの観点が必要
- ▶ 声を通らなければ、世の中を変えられない

## 外科医として歩いてきた道

- ▶ 良かったこと
  - ▶ 若いころならどんなことでも可能
  - ▶ どのようにでもなる
  - ▶ やる気が大切
  - ▶ かけがえのない家族がいる
- ▶ 悪かったこと
  - ▶ 計画性がない
  - ▶ 論文を書く（やってきたことを表す）ことが非常に大事

---

## 大切なこと

- ▶ 自分を限定しない
- ▶ 努力する
- ▶ チャンスを生かせるように一失敗も糧となる
- ▶ 男性だから、女性だから、という固定観念は本当に正しいのか？
- ▶ でも生物学的差はあり、女性しか出産できないというのは事実

# 皆さんは？

自分自身の医師としての目標・生き方  
自分自身の個人としての生き方

チャレンジ精神を持って、やってみては  
いかがでしょうか？

## 「仕事と家庭を両立する工夫 ―勤務医の立場として―」

東京都保健医療公社 荏原病院 産婦人科

吉 野 佳 子

近年、全医師数に占める女性医師の割合は増加傾向にあり、平成 26 年度の医師数調査においては、女性医師数は全医師数の 20.4%を占める。また、医学部入学者に占める女性の割合も約 3 分の 1 と増加しており、今後も女性医師数は増加するものと推察される。

全医師数は増加しているものの、多くの勤務医が当直を含む長時間勤務であること、医学の進歩に伴う多様な医療に対応しなければいけないこと、また、研究や教育など多岐にわたる業務の遂行を求められることなどから、医師の労働環境は苛酷である。仕事と家庭（私生活）のバランス、いわゆるワークライフバランスの実現と働き方の多様化への取り組みが推進されているものの、その実現は容易ではない。長時間労働の是正が急務ではあるが、結婚、妊娠、育児、介護等のライフイベントに伴って、その折々に医師としての職務と家庭を両立するために、今、現実的にできることから考え、実践していく必要がある。

現在、私は総合病院の産婦人科で常勤医として勤務している。私自身は、折々のライフイベントの際にも医師としての仕事をセーブすることなく、継続する方法を模索し、実践してきた。今回は、私自身の経験を踏まえて、仕事と家庭を両立するために、1. 育児サービス、家事のサービスの利用、2. 自身の時間管理＝タイムマネジメント、3. 仕事環境における人間関係（助け合いの精神）を中心に、具体的方策を検討していきたい。

## 「小児科開業医の楽しさと使命」

井上小児科医院 副院長

井 上 清 文

医師の道を志す多くの方々は、学生時代からそれぞれ理想の医師像を考え勉強なさって来た事と思います。国家試験に合格されて医師として現場にたち研修を積む中で、己の進むべき道、科を選択されていくことと思います。どの科を選択されようとも臨床医としての使命は患者さんの助けになること、この一点だと思えます。その為には身につけなくてはならない知識や技量、経験など研鑽を積みねばならない事が沢山あると思えます。良き指導者のいる良き仕事場で研鑽を積んで行って下さい。

小児科という科は非常に general を求められます。内科系の知識はもちろん皮膚科・耳鼻科・眼科、時には整形外科的な知識や処置が必要な時もあります。従って一人前の医師になるのに時間がかかるかもしれませんが、そのぶんやりがいも多いと思えます。一般的に小児科は忙しい・汚い・儲からない等の印象がある科ですが、キャリアを積みば子どもたちの笑い声が聞こえる楽しい職場で、永きに渡り携われる職場かと思えます。現在東邦大学医療センター大森病院に勤務している小児科医は23名、内女医の数は9名です。全国的に医師の1/3は女医と言われているので、平均的な数字かと思えます。

開業をすると多くの先生は各地区の医師会に所属します。開業医の務めは、専門である医療のみならず多岐にわたり地域に貢献することにあります。現在大森医師会の会員は252名で、そのうち女医は44名。先ほどの比率から比べるとずいぶん少ない数になります。家庭に入り出産・子育てを経験して医療の現場に復帰する際に、時間的融通がきかない開業医は女医さんにとっては決して働きやすい環境とは言えないのでしょうか。また小児科医は13名で、そのうち女医は7名です。こちらは、小児科医としての経験が現場復帰をする際のモチベーションになっているのではないのでしょうか。

最後に今回私がお話させて頂く事が、若い世代の先生や医学生が、今後キャリアを積んでゆかれる中で適正な方向性を選ぶ上での一助になるような内容になれば幸いです。



# MEMO

---

---